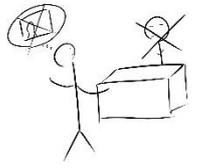


# 仮名

先日役場へ行ききました。マイナンバーカードを家に忘れてしまいました。



まいりました。必要書類を出してもらえませんか。私はここにいるのに、職員さんは私と認めてくれません。職員さんからみる世界では、マイナンバーを忘れた私は、私ではないのです。同じ世界で生きているようで、それぞれ違う世界で生きているようです。

今回ご紹介の「仮名」です。「かな」と読みそうですが、仏教語としては「けみよう」と読みます。今回は仏教の世界観に関わる言葉です。仏教では、すべてのものは様々な縁がつながり仮に成り立っていると説きます。

私というのがまさにそうです。さまざまな生命の流れ、縁が重なり私を構成しています。その私も証明証を忘れれば、役場では私ではなくなるのです。

すべてのものは移ろい変わるので実体はないのですが、それでは困るので仮に名が付けられていると仏教では世界を見ていきます。



また、「かな」と読むときには、僧侶がなにかしら仮名文字で教えを残したものを指しています。

受付でまたおじさんが怒ってる

サッパリ

# こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

# 快樂

読み方で大きく意味が変わる代表格のような用語です。「かいらく」と読みます



と、我々の願望が叶ったときの喜びの興奮状態を快樂と言います。日々の生活のなかで、小さきさまざまな快樂を感じながら我々は生きています。

しかしながら、快樂には、破滅へと導く快樂もあります。この類の快樂は、甘すぎるジュースを飲むようなもので、またすぐにのどが渇き潤いを求めるのです。これを仏教では「渴愛」といいます。

「快樂」を「けらく」と読みますと仏教用語になります。お経の中に出てくる「快樂」の使い方を見てみましょう。阿弥陀如来の成り立ちが説かれる『大無量寿経』には、「彼の仏国土は清浄安穩にして微妙快樂なり」(阿弥陀如来の極樂浄土は、清浄で安らかで穏やかで、なんとも心地がいい)とあります。

我々の五感を刺激するような快樂とは反対です。清らかで安らかで穏やかだから、ずっと快樂を得られるのです。「かいらく」と「けらく」の違いを是非知って下さい。

